

# 伊勢のごせんぐう



内宮領川曳を担当する奉献団による奉納(内宮)



伊勢神宮奉仕会役員が中心となり、お初穂を奉納(外宮)



伊勢神宮奉仕会青年部による奉曳車の特別公開(外宮)

## 第49回 はっほびぎ お初穂 奉納

令和2年  
10月15日 外宮  
10月16日 内宮

奉曳を自粛し、関係者によるお初穂奉納・参拝を行いました

神嘗祭を奉祝するとともに  
コロナ禍終息の祈りを込めて、  
奉納行事を行いました。

初穂曳は、例年15日外宮領  
おかび、陸曳、16日内宮領川曳として、総  
勢千人以上の参加者で賑やかに  
開催されますが、令和2年は新型  
コロナウイルス感染防止対策の一  
環として奉曳は自粛しました。

しかし神宮の神嘗祭は変わる  
ことなく斎行されます。神嘗祭  
奉祝行事として令和2年第49回  
初穂曳は「お初穂奉納」のみを行  
うことといたしました。15日の午  
前9時30分より外宮にて伊勢神  
宮奉仕会役員を中心に、関係団  
体が参列、約150名が2部に分  
かれ、間隔をあけた列で静かに神  
域へと参拝。また市内各町の職  
の掲揚に加えて、奉曳技術の研鑽の  
ため、伊勢神宮奉仕会青年部によ  
り初穂曳奉曳車を設え、当日の午  
前、短い時間でしたが外宮表参道  
にて特別公開を行いました。

そして16日は午前9時30分よ  
り、内宮にて内宮領川曳の今年度  
の担当団である宇治二軒茶屋連  
合奉献団を中心にお初穂の奉納  
が行われました。



昭和54年 陸曳/二見町西区及び二見町連合奉献団(外宮領)



昭和52年 陸曳/常磐西世古及び早修連合奉献団(外宮領)



昭和52年 川曳/宇治二軒茶屋奉献団(内宮領)

# 初穂曳

令和3年、第50回を迎えます



伊勢の民俗行事を伝える 初穂曳のはじまり  
懐かしき昭和。おまつりの賑わいの中をエンヤ〜!

毎年10月15日・16日の神嘗祭を奉祝する行事「初穂曳」。伊勢の民俗行事「お木曳行事」、「お白石持行事」の祭り様式を次世代に伝えることを大きな目的として、昭和47年から毎年実施され、いよいよ今年で第50回を迎えます。

高度経済成長期と言われた時代のこと。昭和48年は第60回神宮式年遷宮、つまり、伊勢の民俗行事お白石持行事の開催年でした。その数年前からお白石持奉献の準備を進める中で、次世代への民俗行事を繋いでいく事業として例年行う行事、新たな伊勢の祭礼行事を創つていくという提案がありました。

伊勢らしい「お祭りの創生」という意味も含め、市内各奉献団が参加する伊勢神宮奉仕会により実施計画が進められました。そして式年遷宮とも繋がる神宮の大事なお祭り「神嘗祭」のお祝いが起源であり、大人も子どももこぞで参加する「伊勢おまつり」の一環として、内宮領は舟を、外宮領は車を奉曳し、神宮にお初穂を奉納することになりました。翌年に控えたお白石持行事を盛り上げるという機運もあったのでしよう。

外宮領は開始当初の8年間は、市内各町(または学区による連合)の持ち回りで車を出し、それぞれが運営する方法で行われていました。その後、陸曳は市内各奉献団の青年有志により結成された「伊勢神宮奉仕会青年部」が運営にあたることとなります。昭和の終わりのお木曳行事に関連した数年は神宮の奉曳車に加えて、1〜5台の町の車が参加し、大いに盛り上げました。

内宮領は最初の10年間、宇治地区と二軒茶屋の連合奉献団が川曳を行い、昭和57年からは内宮領川曳の各町(または学区による連合)の持ち回りとなり、御所車を使っておはらいまちを曳く様式となりました。そして、平成12年からは再び川曳を行っています。

**昭和・平成の「初穂曳」、写真・映像を募集中!**

今年(令和3年)第50回を迎える「初穂曳(陸曳・川曳)」の写真、映像を募集しています。昭和・平成の様子がわかる写真、映像がありましたらご提供ください。

お問い合わせ 伊勢御遷宮委員会  
0596255215

写真・映像募集要項とともに、YouTubeで初穂曳映像を配信しています。

伊勢御遷宮委員会 HP